



厚木中央公園 モニュメント

(撮影 小林会員)

令和4年12月号 Vol. 224
(2022年)

発行：令和4年12月10日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

《江戸庶民の大山詣り・阿夫利神社下社周回トレッキング》

行事区分：企画ガイド（ハイキング）

日 時：10月28日（金）9：00～14：30

場 所：大山

（大山駅～大山阿夫利神社社務局～こま参道～女坂～大山寺～阿夫利神社下社
～二重滝～阿夫利神社下社）

参加者：一般17名、会員8名

皆さんの心がけがよく今日はますますの天気です。大山駅という珍しい名前のバス停で下車し、社務局で今日のコース説明&準備体操後、社務局のガイドを行ってから、旧参道を昔の旅人になった気分で、皆さんと秋風を頬に感じながら、ゆっくりとスタートしました。楽しい一日でありますように！

旧参道は、昔の風情をたっぶり残したなかなか味わい深い雰囲気を持った大山にゆかりのある名所が詰まっているところで、どこも絵になります。Tさん、Sさんのガイドは素晴らしく、皆さん熱心に頷いて聞いておりました。旧参道を抜けてこま参道に入れば、お土産屋さんが並んだ観光地です。女性陣はお菓子、野菜、果物を見るたびに足が止まってしまう。



旧参道



阿夫利神社下社

なんとかこま参道を抜けて追分社で一息入れ、緩やかな階段が続く女坂を登っていくと、疲れた頃に大山寺です。ここで昼食となりました。不動明王が本尊で、怖い顔に似合わず何でも叶えてくれると言いますから、皆さんの今日のお願いが届く（お願いした人限定ですけど）といいですね。

一部の方はここからケーブルで下社に向かわれましたが、下社に着いたらまずは感謝して参拝。関東総鎮護の霊山の神様からパワーをもら

えたかな？ちょっと薄雲ってはいましたがここからの景色に日頃の心や体の疲れを癒されたのではないのでしょうか。Tさんが下社境内をぐるっと説明して、二重滝に向かいます。目の前の二重滝に、先人の褌の寒そうな姿を思い浮かべられた方もいらっしゃるかもしれませんね。下社の茶店に戻って解散となりました。久しぶりの当会のハイキングに皆さん喜んでおられました。高齢の方が多く心配しましたが、事故もなく良かったです。お疲れ様でした。またご一緒しましょう。（藍澤 記）



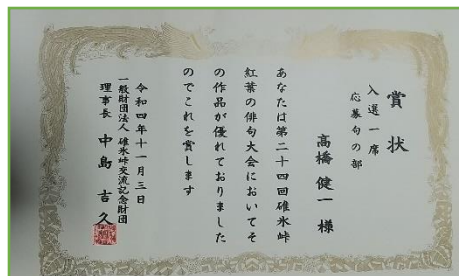
トピック

《高橋健一会員が俳句大会に応募し一席に入選しました》

高橋健一会員から群馬県安中市『碓氷峠とめがね橋』の俳句大会に応募し、11月3日に入選一席『碓氷峠交流記念財団理事長賞』を受賞し、賞状・楯を頂きましたと報告がありました。おめでとうございます。

入選句 『ハイカーに茜群たるめがね橋』

応募・入選の経過を伺うと『9月28日に厚木山歩会のメンバー26名で群馬県安中市の「碓氷峠とめがね橋」へ行き、鉄道文化むらを見学し、アプト道・丸山変電所跡・峠の湯・碓氷湖・めがね橋・熊ノ平経由で種々勉強させて頂き、全員無事帰宅しました。「鉄道文化むら」で碓氷峠紅葉の俳句大会応募案内を頂きました。帰宅後にハイキングでの思い出を応募しておきました。応募したことを忘れていた11月初旬に入選通知と賞状・楯が届きました。初の俳句応募でいきなり入選のお便りに驚きました。応募句総数は114名225句であった』との事でした。



高橋家の石碑と高橋会員

高橋会員の先祖にあたる「蟹殿洞々」（本名：高橋伊兵衛）は江戸時代後期に、全国行脚していた俳人で東谷戸の先祖の邸内に句碑が建っています。

『洞々はここの人なり花の宿』

荻野神社にある「蟹殿洞々」句碑は9月30日の企画ガイド《荻野川ハイキング》の時に、高橋会員がガイドを行なっています。（協会ニュース10月号1ページ参照）

『大空は蓋も實も無しほと々ぎす』

またハイキングガイドで毎年春に訪れる鳶尾山山頂にある大きな石碑に俳句の先達10人の俳句があり、その中にも「蟹殿洞々」の句が刻まれています。『蔓草や何処まで伸びて盆になる』

ご先祖からの俳句のセンスが脈々と高橋会員にも引き継がれているようです。みなさんも俳句作りに挑戦されてみては如何でしょうか。（編集担当）

《秋季観光客入込み調査》

行事区分：行事支援

日 時：11月13日（日）9：00～16：00

場 所：厚木市内5拠点

参加者：10名

七沢森林公園（出会いの広場）

午前中はくもり、午後4時頃には雨が降る予報だったため、書類、パンフレット類が突然の雨で濡れないようにビニールシートなどを準備してのぞみました。今年入会した会員が初参加だったため、備品類を設置後にお客様のカウント方法について説明をしました。色とりどりの紅葉、森のかけ橋とここはいつも落ち着いた自然が感じられます。



10時20分頃に準備体操を終わった「森林セラピー体験ウオーク」の10人程のグループが出発しました。案内板のところで、当会の会員がガイド役を行っていました。子ども連れの家族、若い夫婦、年配の夫婦が私達の前を通りました。アンケートには3組から記入していただきました。相模原に住む外国人（東洋人）の女性2人から料理の美味しいお店が無いか聞かれました。次回来た時の参考にしたいとの事でパンフレットを渡しました。アンケートの設問に答えていたご夫婦は、今日の予算はいくらですか？との問いに、おにぎり1個だけですと笑っていました。私から設問は全国共通なのでと説明しました。猿に注意の放送が何度かありました。「猿に絶対に近づかない。目を合わせない。餌を与えない。特にお子様はご注意ください」という内容でした。公園内にかなりの猿がいるのだらうと思いました。

パラソルは午前中から閉じっぱなしでしたが、それが風で台ごとひっくりかえりました。長年この行事に参加していますが、こんな事は初めてでした。午後2時頃にはさらに風が強くなってきて、椅子、パンフレットスタンドまでが飛んでゆく始末。午後3時頃にはテーブルの上はカウンターと記入用紙だけ。調査終了時まで何とか雨が降らないで済んだのは良かったと思います。（澤田 記）

飯山温泉（中飯山自治会館）

枯れ葉が空を舞い、道ではカラカラと音を立てて駆けずり回る、そんな風の強い日でしたが、その割には暖かく、予報に反し雨にも合わずに済みましたので、ますますの調査日和だったと思います。飯山観光の目玉の一つでもある「ざる菊」は、盛りは過ぎたものの、まだ奇麗に咲き誇っていて、その花に誘われるように、いつもなら人通りもまばらな花畑のある金剛寺方面へと、多くの人や車の流れがありました。



花畑では、「いつもは県道を素通りだけど、花が見えたので」と言うカップルや、「大人になってから、庫裡橋を渡ったのは初めて」と言う近隣に住む親子連れなど、市内にお住まいの方が多かったように思われます。一方、ハイキングや飯山観音へのお客様は、天候の関係からか、リュックを背負ったハイカーはいつもに比べ少なかったものの、駐車場の場所を尋ねる他県の方や、飯山から七沢へと抜けて、七沢温泉で泊まるつもりだと言う方など、市外・県外からのお客様もおりました。

遠く広島から「坂東三十三観音めぐり」に来られたと言うお客様から、「タニシ料理は何処かで食べられますか？」と尋ねられ、私達、観ボラ二人組で顔を見合わせ考えてみましたが、お答えできませんでした。確かに庫裡橋の上には「桜とタニシの里」と書かれていますし、私自身、もう何十年も前の事です、飯山で食べた記憶はあります。しかし、今は近隣の旅館もなくなり、名物に出会う機会も難しくなってしまったようです。

(根岸 記)

【2022 年度ガイド養成講座が終了しました】

本年度のガイド養成講座は従来の内容に加え外部講師による「特別講演」を2回組み入れた企画となりました。また大勢の受講者募集のため、広報あつぎ、タウンニュースへの掲載や、本厚木駅観光案内所や、東丹沢七沢観光案内所にチラシを置くなどの工夫も行いました。

開催経過

1) あつぎ郷土博物館学芸員山岡裕子氏による講義「渡辺華山とあつぎ」

9月3日(土)13時～ あつぎ郷土博物館 参加者：一般12名、会員17名

前半は渡辺華山の人物像について、後半はあつぎ来遊を中心にお話いただきました。アンケートで講演についてうかがったところ好評なコメントを沢山いただきました。



9月3日

2) 活動内容紹介と入会説明会

9月17日(土)13時～ 「アミューあつぎ」あつぎ市民交流プラザ 参加者：一般7名、会員14名



9月17日

厚木市観光振興課様をお迎えし、あつぎの観光についてお話をいただきました。引き続き会員講師による、楽しいガイド、史跡・歴史探訪、ハイキング、行事支援など当会の活動内容の説明がありました。

3) 松蔭大学准教授増田裕彦氏による講義「鎌倉殿の13人 あつぎの武士たち」

11月12日(土)13時～ 「アミューあつぎ」

あつぎ市民交流プラザ 参加者：一般7名、会員20名

当初8月13日(土)に予定しましたが、コロナ感染の高止まり状況が続いていたため「安心・安全」な開催を第一に考え延期しました。

お話は鎌倉殿の13人について、一人一人わかりやすくお話しただくと共に、厚木にゆかりの大江広元、安達藤九郎、愛甲三郎季隆といった武将たちについてもお話をいただきました。

養成講座を終えて

参加者数は目標の 20 名に対して、ほぼクリアできたのですが、最終的な入会者は現時点では数名の方です。でも大変ご熱心で素晴らしい方々にご入会いただいたことで大変良かったと思っています。これからのご活躍が楽しみです。

最後に、今回の一連の養成講座等についてご理解、ご協力いただいた会員の皆様に御礼申し上げます。
(鈴木 記)



11月12日



会員投稿

《 妻田薬師の新羅三郎の絵馬 》

寺田 敏

妻田薬師一般公開でガイドを行った薬師堂左側引き戸の鴨居に、奉納された色彩が落ちた古い絵がありました。鎧武者が石に腰かけて座り、その前に若武者が両手をついて畏まっています。戦前の小学校の修身等の教科書に載っていて唱歌もある、楠木正成、正行親子の「桜井の別れ」の図ではないかと思いましたが鎧武者が笙を吹いており、違うなと思い返しましたが何者が判りません。



新羅三郎義光の絵と清田邦男会員

阿部会員に伝えると絵を見て「新羅三郎義光で場所は足柄峠」と解説してくれました。30年位前、箱根方面を車で観光しながら足柄峠に立ち寄りました。新羅三郎義光が腰かけた石があり、案内版に伝承が書いてありました。「石がゴロゴロあるのに義光が腰かけた石を、どう調べて判ったのか、ホントかな？」と言って家内を笑わせた事を思い出しました。阿部会員から解説を聞くまでは笙を吹いた逸話はすっかり忘れていました。

昼食時に、受付を担当していた清田邦会員と一緒にになりました。食べながら堂内の様子を話していたら「その絵は私の祖父が奉納した」と言ったので驚いて経緯を聞きました。最後の1時間は2人とも薬師堂説明担当になりましたので、傾合いを見て絵と清田邦会員の写真を撮りました。

《 妻田薬師と私の父祖 》

清田 邦男

私の家の本家（父の生家）は、妻田薬師のある旧妻田村の白根の集落の農家です。先祖の初代清田傳右衛門の生年は不明ですが、没年は貞享5年（1688年）5月です。現在は従兄が12代目を継いでおり、白根で350年以上暮らしてきたこととなります。そこで、私の父祖と妻田薬師について、紹介したいと思います。

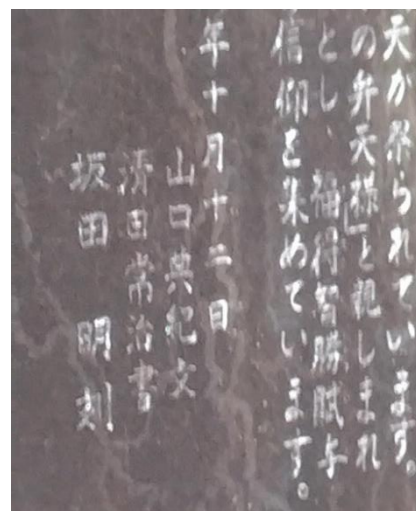
1 新羅三郎の絵馬

まず、今回この投稿を書くきっかけは、妻田薬師一般公開当日の寺田会員とのやりとりからでした。足柄山の新羅三郎義光の絵は、大正三年に私の祖父清田傳三が奉納したもので、父からは、祖父は目が悪かったので、眼病に靈験あらたかなお薬師さん（私が子供の頃は妻田薬師とは言わず、お薬師さんと言っていました）に奉納したと聞いています。

新羅三郎義光は、源頼朝の高祖父、八幡太郎義家の弟で、甲斐の武田氏や常陸の佐竹氏の祖です。

この絵は、鎌倉時代の説話集である古今著聞集にある話をもとにしています。後三年の役で、兄義家の苦戦を都で聞いた義光は、兄を助けるため、朝廷に休暇を願い出たが許されなかったため、兵衛尉の官職をなげうって、奥州に援軍に向かいました。義光は笙の名手で、足柄山で笙の師、豊原時元の子時秋に笙の秘曲を伝授している場面です。師時元はすでに亡く、自分が討死し、秘曲が絶えることをおそれ、時秋に伝えたものです。

Wikipedia を見るとこの古今著聞集の話は史実ではなく、義光の笙の師は時元の兄時忠で、自分が討死することで時忠からもらった名器が失われることを惜しみ、逢坂山で時忠に笙の名器を返したという話が元ようです。戦前は小学校の教科書にも載っていたそうですが、今では知る人はほとんどおらず、阿部会員が義光と見抜いたと聞き驚きました。私もこの絵とは前回の御開帳から12年ぶりの対面で、この日を楽しみにしていたものです。一般公開の終了時間間際にお参りされたご夫婦から、この絵のことについてお尋があり、説明する機会がありました。祖父の奉納した絵の説明ができ、説明員として参加してよかったですと感じました。



清水池の歴史口承の碑
（氏名欄を拡大）

2 清水池の歴史口承の碑

清水池のほとりに由来を書いた歴史口承の碑があり、清田常治書と刻まれています。氏は本家の地親類で私の本家の本家（初代清田傳右衛門の生家）の当主です。ちなみに碑に刻まれている他の2名について、文の山口典紀氏は元厚木市会議長で私の小中学校の同級生の父上で、刻の坂田明氏は父の小学校の同級生です。

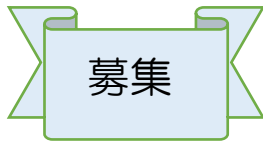
3 銅鐘（厚木市指定有形文化財）

寛永10年（1633年）鑄造の梵鐘の銘文には寄進した24名の村人の名が刻まれています。このうちの一人、清田宗左衛門は常治氏の先祖と聞いていますが、本家の初代が分家前なので、私も子孫の端にいるようです。

余談ですが、昔妻田薬師には長州と呼ばれる浪人が住んでいたそうです。その浪人が大江千里の和歌を書いた屏風が本家に戦後まで残っていました。長州藩主毛利氏の祖が大江広元であることを考えると長州と大江千里。何か因縁めいて感じられますね。



市指定有形文化財 銅鐘
厚木市ホームページより



あつぎ観ボラ会員が選ぶ

厚木市内の好きな神社ベストテン!

厚木市内には色々な神社があります。それぞれ神社名、歴史、祭神も異なり見た感じも外観や雰囲気など趣が異なります。会員1人で好きな神社3社を選んで応募をお願い致します。市内から少し離れていますが、この機会にNo32 番猿ヶ島・熊野神社がどんな神社か見てくるのも良いと思います。
(編集担当)

募集要領

- 1) 対象の神社：眞野会員作成の学習会資料「やさしい神社入門」最終ページで紹介している「厚木の歴史探訪 5 神社」にあるNo1 長沼・諏訪神社～No58 上荻野・浅間神社までの58社。厚木中央図書館でもこの本を閲覧できます。
- 2) 応募方法：1人1件。3社（Noと神社名）を選んで1つだけは、この神社を選んだ理由を記入願います。
- 3) 締め切り：12月31日
- 4) 提出先：澤田宛（メールまたは郵送）
- 5) ベストテン発表：協会ニュース1月号

最近の活動

日付	場所	内容	参加者
11月 12日	アミューあつぎ	定例会	会員 21名
11月 12日	アミューあつぎ	ガイド養成講座 「鎌倉殿の13人あつぎの武士たち」	会員 20名
11月 13日	市内5拠点	秋季観光客入込み調査	会員 10名
11月 25日	宮ヶ瀬～南山	企画ガイド下見 「宮ヶ瀬の紅葉と南山からの絶景 ハイキング」	会員 8名
11月 28日	厚木市内	会員研修 「道標巡り」	会員 7名
12月 2日	宮ヶ瀬～南山	企画ガイド 「宮ヶ瀬の紅葉と南山からの絶景 ハイキング」	会員 8名
12月 3日	厚木消防署 玉川分署2階	企画ガイド勉強会 「七沢城址と七沢の歴史を訪ねる」	会員 7名
12月 5日	相川公民館	編集会議	会員 3名

編集後記

サッカーワールドカップカタール大会ではグループリーグE組の日本が、強豪のドイツ、スペインを破って1位で決勝トーナメント進出を決めました。監督を柱にチームが一丸となって粘り強く戦った結果だと思います。久々に良いニュースでした。頑張れニッポン。

今月号では2022年度に入会した2名の御先祖が、それぞれ厚木市内の歴史に深くかかわっている事を紹介しました。私たちがガイドをする際に「この人の子孫があつぎ観ボラに在籍しています」と説明すると説得力がありますね。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘 前澤 宣子